

第Ⅲ部 就労に困難を抱えている青少年とその親に  
対する意識調査

## 第1章 無業者の経歴と現状

東京大学 大学院情報学環 助教授 本田 由紀

### 要旨

本章では、「青少年の社会的自立に関する意識調査」の独身無業者サンプル157名の経歴と現状について、主に無業者内部の3つのタイプ（「求職型」、「非求職型」、「非希望型」）と性別による違いに留意しつつ検討を加える。各タイプには総じて、就労に対して経歴・現状の双方の面で積極的な「求職型」、それとは対照的に就労に対して消極的な「非希望型」、その中間に位置する「非求職型」、という特徴が見いだされる。注目すべきは、「非希望型」の中でも特に男性には、学校教育における挫折経験や就労経験の少なさ、無業期間の長さなど、就労への意欲や可能性を阻害する諸条件が相当に集中していることである。しかし、就労への積極性を保持している「求職型」でも、例えば学力・学歴や職業経験、年齢、あるいは暮らし向きなどの点では、就労や生活をめぐる諸問題を抱えていないわけではない。そのことは、就労への障害に関する彼ら自身の認識にも反映されている。

無業者の現在の活動内容を詳しく検討すると、現在「特に何もしていない」者すなわち「純粹無業者」は一部にすぎない。それ以外の無業者は進学準備、資格取得準備など多様な活動に従事していたり、家庭や個人に関して特殊な事情を抱えていたりしており、まったく不活発な状態であるとはいえず、無業者を一括りにして問題視するべきではない。しかし、「純粹無業者」における不利な諸条件の著しい集中、及びそれ以外の無業者が「純粹無業者」に転化する可能性という点では、それぞれに固有の課題が見いだされる。

こうした個々の無業者の実態を把握した上で、それぞれに適した支援策が講じられる必要がある。

### 第1節 無業者のタイプ分けと基本属性

#### 1 無業者のタイプ分けと各タイプの構成

本章は、「青少年の社会的自立に関する意識調査」（以下「自立調査」と略記）の間27（現在の状況）に対して「無職（家事手伝い含む）」と回答した162名から既婚者5名を除いた157名の独身無業者を主な分析対象として、その経歴・背景と現状を詳細に検討することを課題とする。「自立調査」の回収サンプル数は4,091であり、その中で独身無業者は3.8%に当たる。

分析に際しては、本報告書第2部における就業構造基本調査の分析と合致する3つの類型に無業者を分類した。分類の手続きは次のとおりである。まず問34（無職現状）に対して、「求職活動中」ないし「独立や開業に向けて準備中」と答えた無業者を「求職型」とした。また「求職型」以外の

無業者の中で、問 44（無職就労意識）に対して「希望と違う仕事であっても、働きたい」ないし「希望の仕事があれば働きたい」と答えた者を「非求職型」とした。そしてこれら「求職型」・「非求職型」以外の無業者を「非希望型」とした。

このような手続きで分類した結果、無業者 157 名中、「求職型」は 67 名(42.7%)、「非求職型」は 58 名(36.9%)、「非希望型」は 32 名(20.4%)となった。本報告書第 2 部の就業構造基本調査の再集計結果では、上記各類型の比率は順に約 60%、20%、20%となっている。この再集計結果と比較して、今回分析に用いる「自立調査」の無業者サンプルでは、「求職型」が 15 ポイント程度少なく、「非求職型」が 15 ポイント程度多くなっている。このような相違が生じる理由は、就業構造基本調査の集計においては 15～34 歳の年齢層を対象としていたのに対し、「自立調査」では年齢の上限を 30 歳としており、前者には含まれているが後者には含まれていない 30 歳代前半の年齢層に「求職型」が多いことによると考えられる。なお「非希望型」の比率は両調査でほぼ一致している。

次節以降では、これら 3 つのタイプの家庭背景や教育経験・職業経験、現在のあり方などを細かく検討していくことにする。全体で 157 名にすぎない無業者サンプルをタイプ別・性別に分割すると各グループのサンプル数はさらに少なくなるため、その中で比率（%）を算出することには問題があるが、以下の分析ではあくまでひとつの目安という意味で比率を付記することにする。

## 第 2 節 タイプ別の基本属性

本節では、各タイプの最も基本的な属性として、性別と年齢の分布を検討する。

### 1 性別構成

各タイプの性別構成を見ると、「求職型」は男性 37 名（55.2%）、女性 30 名（44.8%）、「非求職型」は男性 28 名（48.3%）、女性 30 名（51.7%）、「非希望型」は男性 17 名（53.1%）、女性 15 名（46.9%）となっている。「求職型」で男性の割合がやや多いが、総じていずれのタイプでも男女比はほぼ拮抗している。

### 2 年齢構成

続いてタイプ別・性別の年齢構成を図 3-1-1 に示した。21 歳以下の低年齢者の比率は「非希望型」46.9%＞「非求職型」36.2%＞「求職型」29.9%の順に多い。逆に 25 歳以上の高年齢者の比率は、「求職型」47.8%＞「非求職型」36.2%＞「非希望型」28.2%となっている。ここから、比較的高い年齢の者が多い「求職型」、若い年齢の者が多い「非希望型」という特徴が読み取れる。

各タイプの中で性別の年齢分布を見ると、いずれのタイプでも男性より女性の方が 25 歳以上の高年齢者の比率が高い。特に「求職型」女性は、53.3%と過半数が 25 歳以上である。対照的に、「非希望型」男性は 21 歳以下の低年齢者が 58.8%に達している。このことは、女性の場合はある程度高い年齢でも無業となりやすいのに対し、男性では年齢が高くなれば無業でなくなる確率が女性よ